令和５年度　学校評価・関係者評価　報告書

加西市立北条中学校

■学校教育目標

溌剌・純情・夢ありの精神を持つ生徒の育成
～基礎学力・基礎体力・基礎モラル力の定着を目指して～

■指導の重点事項

1　「基礎学力」・「基礎体力」の定着
2　「基礎モラル力」の育成
3　「学びの意義」の確立
4　「伝統文化の継承」と「地域愛」の育成
5　「教職員の資質」の向上

■学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・オープンスクールを年２回、延べ10日間実施
・参観者にアンケートを行う。
・教職員の個人面談を行ったうえで、自己評価及び学校評価の実施
・卒なく項目を配置され、総合的に判断できる評価である。
・生徒の実態を探るために学校生活についてのアンケートを実施し、学校評価に生かしたい。
・今のように保護者や第３者からの意見が大切である。実際の生徒の意見をしっかりと聞き、様々な事柄に対応できる体制が必要である。
・学校関係者が日頃の生活や態度を改めて見直せたり関係者同士の話し合いや助け合える時間が必要だと思います。

■総合的な学校自己評価

「人として豊かに生きていく力の育成」を教育の目的と捉え、その手だとして「道徳教育」「特別支援教育」に重点をおき、教育実践を行っている。
これからの社会を生きるために求められる主体性・創造力、論理的思考の育成を目指し、次世代型人材（３C）の育成に取り組んでいる。
まだまだ成果としては不十分であるが、今後も継続していく。

■総合的な学校関係者評価

・社会を生き抜くために求められる主体性・創造力・論理的思考の育成を目標として取り組むこと自体が大変良い。
・色々な立場の委員の意見を聞くことができる体制をとれている。
・教育の不易の部分と今日の課題に対応した流行の部分をバランスよく重点化して地道に取り組んでいるのが良い。HPが学校のイメージアップにつながる。

学校自己評価結果（Ａ：よくできた　　Ｂ：できた　　Ｃ：あまりできなかった　　Ｄ：できなかった）

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
学習指導	1	「教科嫌いをつくらない」魅力的な授業づくりに取り組んでいる。	B	・勉強が嫌い、運動が苦手な生徒をターゲットに授業づくりを行っている。 ・ICT等を使い、視覚支援を行いながら興味がもてる授業展開を心がけている。 ・興味関心を惹く工夫を行い、まだまだ改善点はたくさんある。 ・身につけさせたい力を明確にして学習指導を行っていく。 ・支援を必要とする生徒への配慮ができている。	・生徒の主体性を重んじ、教科の特性を生かした指導をしている。 ・落ち着いた授業風景で多くの生徒が熱心に学習できている。 ・対話を取り入れ学び合う授業やICTを活用した個別最適な学びを実現する授業が日常的に実践されることを期待する。 ・グループでの話し合いは活発に発言できていた。意欲的に授業に取り組む姿が見られた。
	2	「基礎学力定着」のため、教科の特性を活かした指導方法を工夫している。			
	3	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組んでいる。			
	4	生徒の個性や到達状況などを把握し、「個に応じた指導」を実践している。			
	5	生徒が自ら課題を見つけ、「主体的に課題に取り組む」学習を取り入れている。			
	6	学習評価を「生徒の学習改善」や「自身の指導改善」の視点で活用できている。			

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
生徒指導	7	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成に努め、基礎モラル力の定着に取り組んでいる。	B	・ルールではなく心の部分への指導をする意識はあるが、共通理解することは難しいと感じる。 ・甘いだけの指導、自己満足の指導になってしまうことがあった。 ・物事の本質を理解し、伝える力をつけ指導にあたっていく。 ・関係機関との連携はとれている。 ・日常生活の些細なことでも雑談として伝えることができている。 ・支援員とも話ができている。	・指導したことに満足するのではなく、指導された側が理解できる指導であれば良い。 ・一人一人に寄り添う指導を組織としてしている。 ・いつ訪問しても学校は落ち着いた雰囲気で生徒の挨拶も良い。先生方の日頃からの取り組みの成果が表れている。 ・学校が落ち着くと学校に息苦しさを感じる生徒も一定数いる。その生徒を見落とさず支援することが大切である。 ・校内を歩いてみて「静かで落ち着いている」という雰囲気が分かる。さらに、主体性が欲しい部分もある。
	8	「優しいけれど甘くない、厳しいけれど冷たくない」姿勢で生徒と向き合えている。			
	9	問題行動等に対し、報告・連絡・相談を確実に行い、組織的な対応に繋げている。			
	10	不登校生徒に対し、SC や SSW、総合教育センター等と連携するなど、状況に応じた適切な支援に取り組んでいる。			
	11	保護者に対して、必要な連絡や相談を迅速丁寧に行い、適切な信頼関係を築く努力をしている。			
道徳教育	12	様々な教育活動で、自分を見つめ、他者の考えを認めながら、共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う指導に取り組んでいる。	A	・多様な意見を聞き、認め合えるような言葉を伝えるようにしている。 ・教材分析が浅く、主題に迫れないこともある。 ・授業前後に学年で検討する機会を設けている。	・一人一人の未来を見つめた中学校道徳の指導をしている。 ・長年にわたって道徳の授業研究に努め、教員の道徳教育に対する意識が高い。
	13	道徳科の授業において、教材・資料を十分に検討したうえで授業力を向上させ、道徳的実践力の育成に努めている。			
人権教育	14	自他の違いを認め共感的に理解した上で、協力してよりよく生きる姿勢を育んでいる。	B	・心無い言葉はまだ聞かれる。 ・自他の違いを認められる度合いは変わるが、協力しようとする姿は多くみられる。	・今の生徒は、周りの生徒をわざと気にしないようにしているような所も見てとれる。 ・不登校生の人権教育をどう保障していくのかは難しい課題だと思う。
	15	いじめ等の人権課題を理解し、共によりよい生き方について考えを深めさせている。			
特別活動	16	生徒会や実践部を軸とした生徒の主体性・創造的な活動を支援し、生徒主体の学校づくりの推進に取り組んでいる。	A	・生徒が自ら考え、動く場面は生徒の学びを深めると感じる。 ・もっと生徒主体で活動できるが、生徒にも教師にも時間が少なすぎる。	・時代の求めることの指導・支援は大切だが、中学生には重荷にもなる。 ・小中交流会等の新しい取組でも生徒が主体的に考え、行動して立派である。全員にリーダーとしての自覚や能力が育つことを期待する。
	17	「道徳実践の場」「リーダー育成の場」と捉え、非認知能力の育成に努めている。			
進路学習	18	キャリア教育の視点を持ち、将来に夢や希望を持たせる指導に取り組んでいる。	B	・今だけでなく、３年後の姿を意識した声かけをしている。 ・教育相談では保護者とともに目指す将来像を共有し、そのための手立てを一緒に考えることができた。	・生徒と保護者の思いをくみとりながらの進路指導、ご苦労様です。
	19	保護者と連携し、自らの意志と責任で生き方や進路選択ができるよう、進路・教育相談の充実に努めている。			

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
健康 安全 防災教育	20	常に生徒の心身の健康状態の把握に努め、健康の保持増進を図る指導に努めている。	B	・養護教諭、体育科教諭のはたらきかけでよく意識できている。 ・施錠や危険個所がないかを意識している。 ・自助、共助の精神について、様々な活動において培えるようにしている。 ・普段から助け合えるような関係づくりを意識できるような言葉をかけている。	・防災については、現に災害が起きた年であるので、個人個人が自分を守れるように心がけてほしい。 ・語り継ぐ防災教育、新たな防災に対応する教育は大変だが必要です。 ・自助、共助の精神を培うことを目指しているのは良い取組だと思う。
	21	常に施設・設備に危険箇所がないか気を配り、下校指導等で生徒の安全意識を高める指導に取り組んでいる。			
	22	適切な危機意識を持たせ、自助・共助の精神を理解させる指導に取り組めている。			
	23	災害や事故等の緊急時の体制を理解し、役割分担を遂行できる準備が出来ている。			
総合学習	24	「総合的な学習の時間」の意義を理解し、教科指導との関連を図る取組が出来ている。	B	・教科指導との連携、系統立てた指導ができていない。	・STEAM 教育には、限界もある。 ・北条中ならではの特色ある取組が外部の者には見えてこない。残念である。次世代型人材育成においても、学校の特色を出す面においても、効果的な学習活動だと思うのだが・・・。
特別支援 教育	25	全ての教室に特別な支援を要する生徒がいることを理解し、実態把握と特性理解に努めている。	A	・最も大切にしていることであり、その観点から全体を把握している。 ・実態把握のもと情報共有することで、さらに良くなる。	・一人一人を大切に、そして寄り添う良き生徒・保護者の理解者に。 ・オープンスクールでの特別支援学級の生徒の表情が明るくて印象的だった。
	26	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、学級経営に努めている。			
部活動	27	「強いチームづくり」よりも、学年やクラスで活躍できる生徒づくりを目標として指導に当たっている。	A	・「最後までやり抜く姿勢」や「何事にも感謝する」の達成を第一に取り組んでいる。 ・明確な目標と指針をもって、指導をおこなっている。	・今後の外部指導者と学校との関係は大変だが、時代の流れでもある。 ・北条中は部活動の数も多く、生徒の選択肢が広いのが良い。 ・多くの部活が立派な成果をあげている。 ・結果だけでなく頑張っている過程を認め、伸ばしてほしいと思う。
	28	部活動の意義を理解し、生徒の自主自立活動の場として、達成感や充実感を得られる指導方法の工夫に取り組んでいる。			
家庭 地域連携	29	学校の情報を積極的に提供し、保護者や地域の方の学校への関心を高め、理解と協力を得られるよう努めている。	B	・仲間と一緒に成長できる喜びた値打ちを感じられるような指導を工夫している。	・学校の理解、広報は大切であり、あらゆる手法を取りながら、今後も発信していく必要がある。 ・トライやる以外での地域連携が難しい。地域人材や地域にあるものを積極的に教材化しようとする先生方の姿勢が大切だと思う。 ・地元で暮らそうとする子どもを育ててほしい。加西で生きていきたいと思える教育を行ってほしい。 ・子や孫がなくても、現状を伝える場が欲しい。健全育成会とコラボを。

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
教職員の資質向上	30	分掌された校務を適正かつ迅速に行うことで、学校運営に対する参画意識をもって職務に取り組めている。	B	・校内研修だけでなく、普段の日常会話をすることが OJT になっている。 ・研修で学んだことを実際の授業に生かし切れていないことが課題。 ・ノー会議、ノー残業デーを設けたことは有意義であった。 ・「人として」大切なことを忘れないようにしている。 ・言葉に重みをもたせ、生徒の心に響くような言葉がけができるようになりたい。	・精神を少し休め、自分を大切にしながら生徒と楽しい会話ができていくことを願っています。 ・生徒は教師の背中を見ています。先生も人として成長する思いを持っておられることが大事だと思います。 ・学習指導、教科指導を組織として研究し、生徒に適応していってほしい。 ・教職員の資質向上のためにも、気持ちに余裕をもって勤務できるよう働き方改革を進めることが大切だ。 ・色々な特性をもった子どもが増える中、生徒一人一人のありのままを認め、個性を伸ばし、楽しい学校生活を送れるよう教職員も学んでいく必要がある。本当に忙しく大変だと思うので、教職員の業務改善は一層、進めていただきたい。 ・生徒の言葉から教師の良い部分を聞けるのがうれしい。これまで育ててもらったものを財産に、社会に出ても生きようとする姿がうれしい。 ・教育環境が整っている時代を生きる先生方のさらなる工夫を期待している。
	31	OJT や校内研修を活用して資質向上に努め、中学校教師として専門性を伸ばすことができている。			
	32	業務改善、勤務時間の適正化に努力し、「ワーク・ライフ・バランス」の確立が出来ている。			
	33	常にコンプライアンス意識を保持し、教育公務員として信頼されることを意識しながら、職務遂行に努めている。			